

二国間交流事業 セミナー報告書

平成 29年 3月 1日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

セミナー代表者所属・部局 京都大学・経営管理大学院

(ふりがな) やまうち ゆたか

職・氏名 准教授・山内 裕

1. 事業名 相手国名 (シンガポール) とのセミナー (振興会対応機関: NUS)

2. セミナー名 アジアにおけるエスノグラフィと相互行為: 学際的研究手法

3. 期間 平成 29 年 2 月 19 日 ~ 平成 29 年 2 月 21 日 (3日間)

4. 開催地

(都市名と会場名) シンガポール・南洋理工大学

5. 参加者数 日本側 15 名 (うち、旅費本会負担 11 名)

(代表者を含む)

相手国側 3 名 (うち、滞在費本会負担 0 名)

その他の国 4 名

参加者 計 22 名

6. セミナー参加者

(1) 日本側参加者（代表者は除く。また、振興会により旅費を負担された参加者には*印を付すこと。）

氏 名	所属・職名
平本 毅	京都大学経営管理大学院・特定講師
鈴木 智子	京都大学経営管理大学院・特定准教授
松井 剛 *	一橋大学商学研究科・教授
木村 純子 *	法政大学経営学部市場経営学科・教授
圓丸 哲麻 *	麗澤大学経済学部・准教授
寺崎 新一郎 *	九州大学大学院経済学研究院・助教
山口 健一 *	福山市立大学都市経営学部・講師
鎌田 大資 *	椋山女学園大学人間関係学部・准教授
佐藤 那央	京都大学情報学研究科・博士後期課程
藤田 弥世 *	京都大学教育学研究科・博士後期課程
地頭所 里紗 *	神戸大学大学院経営学研究科・博士後期課程
瀬良 兼司 *	神戸大学大学院経営学研究科・博士前期課程
朝岡 孝平 *	一橋大学商学研究科博士後期課程
織田 由美子 *	一橋大学商学研究科博士後期課程
計 14 人	

(2) 相手国側セミナー代表者

所属・職名・氏名 Nanyang Technological School・Assistant Professor・Julien Cayla

(3) 相手国参加者 (代表者は除く。また、振興会により滞在費を負担された参加者には*印を付すこと。)

氏名	所属・職名
Patrick Williams	Nanyang Technological University Associate Professor
Shiwei Chen	Nanyang Technological University Ph.D. Student
計 2 人	

(4) 日本または相手国以外の国の参加者

氏名	所属・職名 (国名)
Delphine Dion	ESSEC Associate Professor
Cheris Shun-ching Chan	The University of Hong Kong Associate Professor
Gary Fine	Northwestern University John Evans Professor of Sociology
Kushagra Bhatnagar	Aalto University Ph.D. Student
計 4 人	

7. セミナー概要（セミナーの目的・実施状況・成果等を簡潔に記載してください。）

セミナーの目的

本セミナーは、アジアにおいて「文化」を標榜し、研究に携わる若手研究者の、領域を超えたネットワークの構築を主たる目的として実施した。近年、経営学、マーケティング、デザイン、サービス科学などの領域において、「文化」が重要な概念として議論されている。しかし、このような研究分野における文化への注目の高まりを他所に、アジアにおいてはこの動向が十分に認識されておらず、研究者のネットワークも弱い。独自の文化を持ち、現代社会にける存在感を増すアジア地域において、現状の遅れを憂慮される事態である。また、文化とアジアという視座の幅広さを鑑みると、一つの学問領域に閉じるのではなく、多様な視点から議論を交わす必要がある。

以上のことを踏まえ、本セミナーは、主にエスノグラフィ(民族誌)、相互作用論(interactionism)、エスノメソドロジーといった視座から研究を行う、経営、マーケティング、社会学などの若手研究者が一堂に会する場とし、アジアにおける研究課題の共有とコミュニティの形成を目指して企画した。

実施状況

本セミナーは2017年2月19日から21日の3日間、シンガポールにて実施した。期間中のプログラムの概要は以下の通りである。

1日目(Hotel Jen Makan)

夕方

- ・自己紹介
- ・レセプション
- ・記念撮影

2日目(シンガポールボタニックガーデン内セミナールーム)

午前

- ・オープニングキーノート
- ・ラウンドテーブル(参加者による研究内容の紹介と議論)
- ・ゲストスピーカーキーノート(Cheris Shun-ching Chang, Associate Professor, Department of Sociology, The University of Hong Kong)

午後

- ・ラウンドテーブルディスカッション(ph.D. students) & リサーチディスカッション(senior researchers)
- ・メンターセッション1
- ・メンターセッション2

3日目(南洋理工大学)

午前

- ・ゲストキーノート(Gary Alan Fine John Evans Professor of Sociology, Northwestern university)
- ・ACI(Asian Consumer Insight) 訪問
- ・ACI イントロダクション&ディスカッション

午後

- ・キャンパスツアー
- ・ラップアップミーティング

成果

3日間のセミナー中、ラウンドテーブルやディスカッションにて参加者同士が各々の研究の紹介や、その課題などを議論し合う時間をふんだんに取ることができた。これらのセッションを通して、領域の異なる研究者同士がお互いの関心や手法などを共有し合い、相互理解を深めるとともに、文化に興味、関心のあるアジアの研究者間コミュニティ形成における自身の研究の立ち位置を改めて再確認することができた。経営学や社会学領域における文化を対象とした研究や議論はその複雑さゆえに単一のコミュニティで閉じてしまう傾向にあるが、今回このような機会を通して、自身の研究をより幅広い視点で考察し、高めていくことはもちろん、領域を横断した共同研究など新たな可能性についても模索する良いきっかけとなった。

また、2度にわたるメンターセッションでは、博士課程在籍中の学生の研究内容に対し、参加した研究者が対面でアドバイスを与えることで、若手研究者の育成という教育的な成果も限られた時間の中で最大限達成することができた。加えて、近年様々な研究分野、並びに実務家において注目されているエスノグラフィ（民族誌）を用いた研究で実績を持つゲストスピーカー2名の講演も、方法論や具体例、研究姿勢などが言及され、若手研究者が今後研究を進めていく上で有意義なものとなった。この3日間のセミナーを通して、大きな目的として掲げていた若手研究者間のコミュニティ構築の基盤は十分に確立されたと考えられる。